

# 国立大学法人における保育士養成の取り組み

## —鳥取大学地域学部地域教育学科の成果と課題—

奥野 隆一

(教授・発達科学講座 [okuno@rstu.jp](mailto:okuno@rstu.jp))

高橋 千枝

(講師・発達科学講座 [c-takahashi@rstu.jp](mailto:c-takahashi@rstu.jp))

キーワード：国立大学法人，地域学部地域教育学科，保育士養成

### はじめに

四年制大学における保育士養成は、近年増加傾向にあるが、指定保育士養成施設全体の約35%と決して多いとは言えない。さらに国立大学法人は養成施設全体の5%にも満たない。平成21年5月31日現在では、全国保育士養成協議会に加入している指定保育士養成施設の校種は四年制大学が165校、短期大学が233校、その他施設が76校である(国立大学法人の指定保育士養成施設は17校である、うち協議会に加入している大学は10校である)(全国保育士養成協議会総会資料, 2009)。そのような中、鳥取大学地域学部では平成17年度4月より保育士養成(定員10名)が開始され、平成21年度3月に第1期の卒業生を送り、鳥取大学地域学部初の保育士が誕生した。この間カリキュラムや保育実習体制が整えられ、また平成21年10月には中国四国厚生局の実地指導調査等が行われた。以上のことから、鳥取大学地域学部における保育士養成に関する成果と今後の課題について検討し、国立大学法人である鳥取大学地域学部において保育士を養成する意味について考えてみたいと思う。

## 第1章 4年制大学における保育士養成

### 1. カリキュラムの特色

鳥取大学地域学部の保育士養成カリキュラムの特色は、まず幼児教育コース(保育士資格取得コース)の定員が10名ということである。そのため、個々への充実した指導体制が整っている。多くの保育士養成校では、1学年50名以上の定員で保育士養成が実施されている。もちろん鳥取県内の他の保育士養成校も例外ではない。しかしながら、大量の保育士を養成し、児童福祉施設に就職している反面、離職率の高さということも、全国的な課題としてあげられている。指定保育士養成校を卒業した学生のうち、卒業後6年間の間に約半数の卒業生が何らかの形で転職をしているのも、個々への指導・支援が不十分である結果といえるのではないだろうか(全国保育士養成協議会報告, 2009)。そこで鳥取大学地域学部では、定員を10名に定め、4年間のカリキュラムを通して、保

育をじっくりと学び、単なる保育士ではなく、将来的に児童福祉施設の中心的存在を担うという意識をしっかりと持たせ、地域のキーパーソンとなるような保育士を養成することを目的としている。

また地域学部地域教育学科では、保育士資格だけではなく、幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭等の教員免許を取得することが可能である(渡部, 2009)。そのため、地域教育学科には保育だけではなく、各分野において専門性の高い教員が数多く配置されている。とりわけ、近年保育において課題とされている「障がい児保育」や「保幼小連携」といったことに対する問題意識や支援技術を、保育の視点だけではなく、特別支援教育や小学校教育、発達心理学的視点から学ぶことができる。このような点から、学生は乳幼児期だけではなく、子どもを支援するにあたり、学童期や青年期に至るまで長期的に見通しを持った保育ができるようになる。これは幼児教育コース(保育士資格取得コース)だけではなく、地域教育学科の特色でもある。学生は数多くの選択必修科目から必要単位数を履修することによって、かなりの専門性を持って、保育士の資格を取得することができる(表1-1, 表1-2)。

### 2. 保育実習

#### ① 全体方針

児童福祉法の改正、保育所保育指針の改訂を受け、保育所の役割・機能はより多様になり、保育士の資質の向上が責務とされている。実際、最近の保育所は、従来からの家庭の代替としてのケアに加えて、産休明けからの乳児保育、延長・夜間保育・一時的保育など多様なニーズへの対応、障がい児や被害待児に対する専門的ケアを行ってきている。

また、子育て中の家庭を支援する地域の拠点として、地域子育て支援のネットワークにおいて重要な役割を担っている。

このような保育所機能の実情について学び、さらに地域における子どもの生活を総合的に理解し、援助技術を習得することが、保育実習の目的である。学生にとって、現場の実習における学びの意義がきわめて大事になっている。学生自ら、実習の学びを大学での授業や演習と関連させ、保育士として

の資質を高めることが求められている。保育実習では、以下の三点をねらいとして展開している。

1. 保育所保育の特徴である養護と教育の一体性、地域における子育て支援など保育所の社会的役割・機能、保育士など職員の仕事の内容や役割分担、チームワークなどについて体験的に学び、理解を深める。
2. 乳幼児の発達と生活の状況をふまえての保育課程・指導計画の立案や実際の保育のすすめ方、保育の施術や援助・指導の方法について実習を通して修得する。
3. 実習体験で学んだことと授業や演習などで学んだ知識・技能を関連づけたり、整理したりして自ら保育士としての資質を高めていく力量を養う。また、各自の実習体験を話し合うことによって、乳幼児の最善の利益への配慮、保育士の役割や専門性、職業倫理などについて理解を深めていく。

## ② 実習前後の学習に対する指導

保育実習にむけて保育実習指導（45時間、1単位）を2年次生の前期に行っている。保育実習指導は、保育実習の目的・方法を理解し、これを円滑にすすめていくための知識・技術を習得することにある。事前指導において、各自の学習内容・課題を明確にすることに焦点をあて、事後指導では各自の実習体験を整理し深化させ、その後の学習課題を明らかにする。

方法としては、学内における講義や演習（グループ・ディスカッション、ロールプレイ等）、個別面接など各プログラムに応じた多様な方法を用いている。また、実習園との連携を重視して、実習施設の指導担当者の講義や実習施設への訪問を随時行っている。

1. 事前指導として取り上げている内容は次の通りである。
  - 1) 保育実習の意義・目的・内容の理解
  - 2) 実習施設の理解
  - 3) 実習生の心構えの理解、特に個人情報保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解
  - 4) 保育実習の方法の理解
  - 5) 実習記録の意義・方穂の理解
  - 6) 実習課題の明確化

## 2. 実習中の指導

実習中に教員が実習先への訪問指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生への指導を行う。

## 3. 事後指導について

実習終了後、グループ討議や個別面接により、実習体験の多面的検討、共有化や実習記録日誌などにもとづく評価、レポートにまとめることなどをして、実習の成果と今後の課題を整理させる。報告会を行い、各自の体験を多面的に検討し、新たな学習目標を明確にさせる。

## ③ 保育実習の期間・内容

鳥取大学地域学部では保育実習Ⅰ（保育所）を2年次の8月下旬～9月上旬に実施し、保育実習Ⅰ（施設）を2年次の2月下旬～3月上旬に実施している。また保育実習Ⅱ・Ⅲについては3年次の3月上旬～中旬にかけて実施している。地域学部では同時に幼稚園教諭や小学校教諭、および特別支援

学校教諭免許状取得のための教育実習が実施されているため、それらの実習時期および学年がかさなることのないよう、また保育実習と教育実習が互いに効果をもたらすよう配慮しながら実習計画を立てている（表2）。

また保育実習Ⅰ（保育所）前に必要と考える科目を1年次および2年前期に配置する等、他の授業科目との関連についても平成17年度以降、数度にわたり検討・調整してきた。もちろんそれぞれの実習（Ⅰ（施設）・Ⅱ・Ⅲ等）実施後にはより深い幼児理解さらには保育技術の質的向上を目指したカリキュラムが構成されており、基礎から応用へ段階的に学習できる体制を整えている。これは他の教員免許状取得の方式である「サンドイッチ方式」（渡部、2009）と同様の思いであり、また地域学部地域教育学科のコンセプトでもある「産育訓教」という学びの全体像とも一致している（学科共有資料、2009）。

さらに幼児教育コース（保育士資格取得コース）では、保育実習指導の一環として、毎年8月に保育実習直前強化合宿を実施している。これはコースの2年生を中心として、模擬保育などを実施しているものである（資料1）。合宿中は保育技術の向上のみならず、学年間交流も視野に入れた内容も実施され、学生にとって実習に向けた充実した機会となっている。毎年12月に実施されている中四国保育士養成協議会学生研究大会へも参加している。本大会は、中四国の保育士養成校の学生が、在学中に様々な手法で研究してきたことを発表する場である。今年度で3度目の参加となる幼児教育コースでは、3年生が中心となり、オリジナルのミュージカルを発表した。本大会は、実習・講義・演習で学んだ知識や技術を披露する有効な場となっている。また他校との交流の場となり、中四国地域における保育士を目指す学生にとって、よい刺激となっている（資料2参照）。

## 3. 中国四国厚生局実地指導調査

平成21年10月には、中国四国厚生局による、実地指導調査が実施された。ここでは、今回の調査における鳥取大学の保育士養成に対する厚生局の調査内容と準備書類及び評価について述べる。調査実施日は、2009年10月30日であった。調査担当者は、中国四国厚生局健康福祉部指導養成課長と課員であった。鳥取県福祉保健部子育て支援総室子育て応援チーム保育幼児教育担当副主幹と福祉係が同席した。中国四国厚生局から事前提出資料が求められた。資料は、以下のものである。①養成施設全般に関する事項（前年度・当年度分）—学則、カリキュラム、履修方法、成績評価等、履修認定等についての各種規定、健康診断に関する表簿、入学者の選択及び成績審査に関する表簿。②教員（専任・その他）に関する事項（前年度卒業生の入学から卒業までの分・当年度分）—出勤簿、履歴書・各種資格証等。③授業に関する事項（前年度卒業生の入学から卒業までの分・当年度分）—シラバス、時間割表、学生の出席簿、教員別の授業実施実績表（各担当科目ごと）。④実習に関する事項（前年度・当年度分）—実習施設一覧、実習要綱（実習の手引き）、実習計画表（巡回計画を含む）、実習実績表。⑤承認及び届出手続きに関する書類（～

調査日当日までのもの)―新規指定書、各種変更承認申請書、各種届出書類、⑥施設等に関する事項(最新のもの)―建物の配置図・平面図・関係教室毎の配置図、規定備品の保有状況であった。

当日は、9時20分から開始され、まず大学から本学の概要説明、学科の概要説明ののち、事前提出書類にしたがって質疑応答が行われた。その後、施設設備の調査が行われ、中四国厚生局より指導調査の講評がなされた。教育内容や施設設備については、概ね好評であった。しかし、変更届など手続きについては、迅速に対応するように指導を受けた。

後日、文書にて以下のような改善指導が行われた。一つは、幼児教育コースは定員10名にもかかわらず定員を守っていない。その理由と定員増の可否についての判断及び選抜方法について説明しなさいというものである。これに対する回答は以下の通りである。

幼児教育コースが定員10名に至った経過は次の通りである。本学が指定保育士養成施設申請にあたり、当時中四国厚生局から鳥取県全体の保育士養成の総数を上回らないなら認可するとの指導があり鳥取県と協議して県立保育専門学校で定員50名から10名を本学に回すことで、鳥取県と合意して、申請認可された経緯から、定員10名となったと回答した。

さらに幼児教育コースの分属判定については、地域教育学科一年生を対象に、2回の説明会、作文、面接試験を実施し、保育士資格取得後保育現場での働く意思及び保育士としての適性を判断して決定している。この結果、説明会実施の段階で志望動機が弱い学生は辞退しており、残った学生を慎重に選考した結果、どうしても不適格と判断できなかったため定員を超過するにいたった。定員拡大については、地域教育学科の学生配置バランス上、これ以上幼児教育コース担当の教員を増やすことが難しく、また少数の学生を丁寧育て、地域における保育・子育てのリーダーとして育成するためには、10名が限度であり、定員については厳守すると回答した。

二つは、教育課程において「基礎技能に関する演習」については体育の科目が開設されていないので対策を立てるようにとの指導であった。これについては、必修科目・基礎技能の体育として「健康スポーツ学習の基礎Ⅰ(演習)」を追加し、在学生及び2010年度入学生から履修できるよう対応した。

## 第2章 地域における保育士養成

保育実習Ⅰは鳥取県内の施設で実施し、保育実習ⅡおよびⅢについては学生の出身地での実習を推奨している。

本学の保育士養成課程は地域学部ということを活かし、地域に根付いた保育士養成を考えている。そのため、保育実習Ⅰでは鳥取県内の保育所およびその他の児童福祉施設へ依頼し鳥取県における保育事情についての理解を深める。また保育総合ゼミおよび保育実習指導では鳥取県保健福祉部、鳥取市児童家庭課および鳥取県内の公私立保育所の職員を講師として招き、鳥取県における保育の現状と保育実習を実施するにあたり、事前に学習しておくべきこと等の講義を取り入れている。また保育実習Ⅱ・Ⅲについては、各学生の出身地を

「地域」として捉え、鳥取県周辺地域も含めた地域における保育支援について学ぶ。実習以外にも鳥取県内の施設等からアルバイトやボランティア等の依頼を受け、様々な場所で学生が活躍している。

また平成20年度の卒業生(第1期生)については、全員が保育士として保育所やその他の児童福祉施設に就職をした。就職先地域については鳥取市2名、鳥取県(鳥取市を除く)1名、であった。他の学生についても、鳥根県、岡山県といった鳥取県周辺地域において保育士として活躍している。また平成21年度(第2期生)の卒業予定の全学生についても保育士として就職先が内定している。今後も鳥取県を中心とした地域における保育士を養成すると共に、将来的にそれぞれの地域の中心的人物となるような保育士の養成に力を入れてゆきたい。

## 第3章 今後の課題

### 1. カリキュラムの再検討(選択科目の絞り込み)

本学科では、専門性の高いスタッフが多いため、選択科目が非常に多く用意されているのは前述したとおりである。しかしながら一方で選択科目が多いため、逆に学生により好きな分野の科目を多く取り過ぎ、結果として知識に偏りが見られている。今後はさらに検討を加え、今以上に充実した4年間のカリキュラム構成を検討したいと考えている。また実習前に履修すべき科目とその内容についてもさらに検討し、保育実習(幼稚園等の教育実習も含め)がさらに有効な学びとなるようなカリキュラム構成についても考えてゆきたい。

### 2. 鳥取への就職・保育所以外の施設への就職

昨年度には無事第1期生を保育士として誕生させることができた。そして今年度は第2期生の卒業を予定している。卒業生(および卒業予定学生)全員が保育士として就職をしていくことは鳥取大学保育士養成における素晴らしい成果であるといえる。しかしながら鳥取県に就職を決めた学生は全体の10.5%である。鳥取県の保育士養成校、とりわけ地域学部として、地域における保育士養成を考えた場合、どのような保育士を育てなければならないか、そのためにはどのような指導が必要かということについては、今一度検討してみる必要があるだろう。

### 3. 鳥取大学地域学部における保育士養成のあり方

鳥取大学での保育士養成は始まったばかりである。鳥取大学を卒業した保育士が即戦力として地域で活躍できるように土台作りを、我々は今後さらに検討する必要があるだろう。また鳥取大学を卒業した保育士資格を持つ人物が地域の児童福祉施設で求められるよう、卒業生の今後の活躍にも期待したい。そのためには、鳥取大学地域学部における保育士養成のあり方についていくつかの課題を提起したい。

一つは、鳥取大学地域学部地域教育学科の教育・研究目的である「人々が地域でともに育ち、豊かに生きていくための

発達・学習支援、教育福祉などを学んだ、地域の人づくりに  
おけるキーパーソン」としての育成に取り組むことである。  
そのためには、地域学入門・地域教育学入門・地域学総説な  
ど地域学をベースにした保育士養成に取り組むことが課題で  
ある。

二つは、地域教育学科のコンセプトである「生涯発達」を  
しっかり理解し、「生涯発達」の視点から最初のスタートであ  
る乳幼児期の保育・子育てを担える保育士養成である。

三つは、地域の保育・子育ての問題について「地域調査」  
を活用して地域に密着し、地域の保育・療育・福祉・教育な  
どを総合的に把握できる視野をもって政策を策定できる「子  
育てプランナー」としての育成である。このような人材育成  
は、鳥取大学地域学部だからこそ可能である。

四つは、鳥取大学地域学部として専門性の高い保育士の養  
成を目指すことである。例えば、鳥取大学医学部と連携して  
長期に入院している子どもの保育を担う人材の育成も専門性  
の高い保育士養成の一つである。鳥取大学の知的財産を学部  
をこえて生かしていくことになる。

最後に、保育現場は「知と実践」が融合した生き物である。  
そのためには、保育実践者であると同時に、保育を研究する  
力を持った実践的研究者としての保育士養成が求められる。

#### 文献

1. 渡部昭男, 「開放制における「サンドイッチ方式による幼  
稚園・小学校教育実習」並びに「2年次実施方式による  
特別支援学校教育実習」の現状と課題」, 地域教育学研究  
(創刊号), 2009
2. 全国保育士養成協議会『「指定保育士養成施設卒業生の卒  
後の動向及び業務の実態に関する調査」報告書Ⅰ』, 保育  
士養成資料集第50号, 2009
3. 全国保育士養成協議会「会員の状況」, 平成21年度総会  
資料, 2009

表1-1 幼児教育コース（保育士資格取得コース）課程表

告示による教科目				本学における教科の開設状況等			備考
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	
教 養 科 目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	大学入門ゼミ	講義	2	必修 必修 6単位以上修得
				情報リテラシ	講義	2	
				日本国憲法	講義	2	
				教育社会学	講義	2	
	外国語	演習	2以上	コミュニケーション英語A	演習	1	必修
				コミュニケーション英語B	演習	1	必修
				実践英語A	演習	1	必修
				実践英語B	演習	1	必修
				総合英語I	演習	1	必修
	体育	講義	1	からだ気づき入門	講義	2	いずれか 2単位以上 修得
				スポーツと文化	講義	2	
				ヘルスプロモーション学	講義	2	
				健康スポーツ科学実技	実技	1	
設置単位数合計 10単位以上				修得単位数合計 15単位以上			

告示による教科目				本学における教科の開設状況等			備考	
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数		
告示別表第1による教科目	保育の目的の本質的理解に	社会福祉	講義	2	福祉社会論	講義	2	必修
		社会福祉援助技術	演習	2	社会福祉援助技術(演)	演習	2	必修
		児童福祉	講義	2	児童福祉論	講義	2	必修
		保育原理	講義	4	保育学原論	講義	2	必修
					保育の課程と方法	講義	2	必修
		養護原理	講義	2	養護原理	講義	2	必修
		教育原理	講義	2	教育学	講義	2	必修
	保育の対象の理解に	発達心理学	講義	2	生涯発達論	講義	2	必修
		教育心理学	講義	2	発達と教育の心理学	講義	2	必修
		小児保健	講義	5	病弱児等の保健と指導	講義	2	必修
					肢体不自由児等の保健と指導	講義	2	必修
			実習		小児保健(実)	実習	1	必修
		小児栄養	演習	2	小児栄養(演)	演習	2	必修
		精神保健	講義	2	子どもの精神保健	講義	2	必修
	家族援助論	講義	2	家族支援論	講義	2	必修	
	保育の方法の理解に	保育内容	演習	6	言葉の保育	演習	2	必修
					環境の保育	演習	2	必修
					人間関係の保育	演習	2	必修
					乳児保育	演習	2	乳児保育(演)
	障害児保育	演習	1	障害児保育(演)	演習	2	必修	
	養護内容	演習	1	養護内容(演)	演習	1	必修	
	基礎技能	基礎技能	演習	4	音楽技能演習	演習	2	必修
					造形技能演習	演習	2	必修
健康スポーツ学習の基礎I(演習)					演習	1	必修	
保育実習	保育実習	実習	5	保育実習指導	実習	1	必修	
				保育実習I	実習	4	必修	
総合演習	総合演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼・小)	演習	2	必修	
設置単位数合計 50単位以上				修得単位数合計 52単位以上				

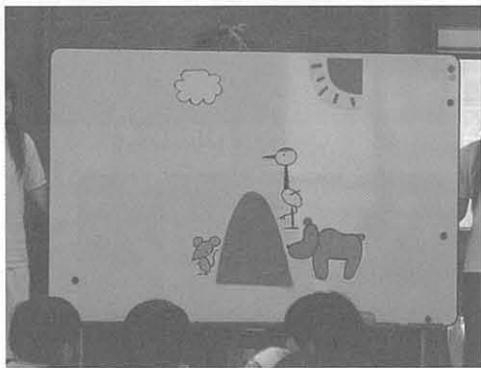
表1-2 幼児教育コース（保育士資格取得コース）課程表

告示による教科目				本学における教科の開設状況等			備考
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	
告示別表第2による教科目	各指定保育士養成施設において設定 関する科目 目的の理解・ 保育の本質に 関する科目 保育の対象の理解に 関する科目 関する科目 保育の方法 保育の内容の理解に 関する科目 基礎技能		17以上	人間と教育－教職入門－	講義	2	17単位以上修得 いずれか2単位修得
				地域教育学入門	講義	2	
				教育思想研究	講義	2	
				カリキュラム論	講義	2	
				人権教育論	講義	2	
				地域教育計画論	講義	2	
				障害児者福祉論	講義	2	
				学習社会論	講義	2	
				病弱児等の生理・病理	講義	2	
				教育心理学特論	講義	2	
				発達心理学特論	講義	2	
				乳幼児心理学	講義	2	
				幼児の理解と発達相談	講義	2	
				子どもの理解と発達相談	講義	2	
				知的障害児等の教育診断	講義	2	
				知的障害児等の心理	講義	2	
				視覚聴覚障害教育論Ⅰ（視覚障害）	講義	1	
	視覚聴覚障害教育論Ⅱ（聴覚障害）	講義	1				
	障害児教育原論	講義	2				
	表現の保育	講義	2				
健康の保育	講義	2					
環境の保育特論	講義	2					
人間関係の保育特論	講義	2					
言葉の保育特論	講義	2					
表現の保育特論	演習	2					
健康の保育特論	演習	2					
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習	2	}
	保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ	実習	2	
設置単位数合計 19単位以上				修得単位数合計 19単位以上			
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目				地域教育ゼミⅠ -保育系-	演習	2	
				地域教育ゼミⅡ -保育系-	演習	2	
				地域教育ゼミⅢ -保育系-	演習	2	
				地域教育ゼミⅣ -保育系-	演習	2	
				地域教育ゼミⅤ -保育系-	演習	2	

表2 09年度 保育実習年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次					保育実習Ⅰ (保育所)	教育実習 (特別支援学校)					保育実習Ⅰ (施設)	
3年次		教育実習 (幼小主免 基礎実習)				教育実習 (幼小主免 応用実習)		教育実習 (幼小副免)				保育実習 Ⅱ・Ⅲ
4年次			教育実習 (特別支援学校)									

資料1 09 保育実習直前強化合宿



資料2 09 中四国保育学生研究大会と練習風景

